

平成30年度 金沢大学附属中学校 自己評価表

学校目標 自由闊達な気風の中で、広い視野と豊かな人間性を持ち、将来、社会的使命を果たす生徒を育成する。 (1) 自ら考え学ぶ生徒 (2) お互いに認め合い、助け合う生徒 (3) 心身ともにたくましい生徒				
本校の経営方針 (1) 金沢大学の方針、規則に沿った学校運営を行う。 (2) 学校教育学類、大学院教育学研究科・教職実践研究科や他の附属学校園との連携を密にして、附属学校としての任務の遂行にあたる。 (3) 生徒や教職員の自発性を尊重しながら、教育目標や目指す生徒像の具現化を図る。 (4) 金沢大学附属中学校のよき伝統を受け継ぎ、より良い校風の樹立と継承をめざす。				
評価項目	目標	具体的取組	評価	次年度への主な課題
教 務	1. 総合的な学習の時間の内容を精選し、系統立てて実施する。 2. 学校行事をより効率よく運用する。 3. 新学習指導要領に対応した教育課程を円滑に実施する。	・E S Dの視点で再構築した総合的な学習の時間の内容を精選し、系統立てて実施する。	A	新学習指導要領に対応した教育課程をより円滑に実施する。
		・学校行事の年間計画をより効率よく運用する。	B	
		・新学習指導要領に対応した教育課程を円滑に実施する。	A	
生徒指導	たくましく生きるための社会性の基礎を養う。	・あらゆる場面で挨拶ができるよう指導する。	B	生徒自ら問題意識を持てるように促し、委員会活動を活性化させる。生徒会活動において委員会と執行部との具体的な連携案を示す。
		・時間を守り、行動できるよう指導する。	B	
		・心豊かで思いやりのある言動ができるように指導する。	A	
教育実習	1. 実習を通して学生に教師の自覚・責任の意識および実践的な指導力を育成する。 2. 大学院教職実践研究科の中学校における実習体制を整え、より充実した研究実践ができるようにする。	・教科の実習のみならず、学級経営や生徒指導など、様々な実習が行える計画、運営を行う。	A	充実した学校実習ができるように、大学(院生)との連絡や確認を今以上にしていく。
		・大学との連絡や確認を密にとり、実習に係る取り組みの理解、共有を図りながら、計画、運営を行う。	B	
研 究	伝統文化教育に関わって 1. 各教科等で学んだことを自分たちの現在や将来の行動につなげられる生徒を育てる。 2. 教科等横断的なカリキュラムのマネジメントに取り組む。 3. 伝統文化教育の推進と資質・能力の育成との関連について明らかにする。	・各教科等の授業において、生徒が自ら発見し取り組む、または生徒が問題意識を持って進んで取り組めるような課題設定を目指す。	A	伝統文化教育に関する取組の成果や課題を、生徒・保護者にフィードバックし、改善につなげる。
		・学校全体のグランドデザインに基づいて、伝統文化教育を柱として各教科等が連携して学習活動に取り組めるようカリキュラムマネジメントを行う。	A	
		・生徒、教員、保護者ともに適宜アンケートを実施し、伝統文化の持続・発展に関する意識や資質・能力について評価をし、さらなる指導に役立てる。	B	

情報教育	1. 情報社会に参画する態度の育成	・情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会に参画しようとする態度を育成する。	B	ICT 教育を行うための環境整備と、教諭を対象とした情報モラルに関する情報提供をする。
	2. 情報活用実践力の育成	・技術・家庭科技術分野と各教科等が相互に関連を図り、情報を適切に収集、判断、整理、活用、発信するために必要な能力を指導する。	B	
保健安全	1. 自他の心身の健康に対し主体的に関わる生徒を育てる。	・よりよい安全点検をめざし、生徒・教員が連携して取り組む。	A	学習環境の整備について、生徒指導部と連携し、具体的な取り組みを考えていく。
	2. 自他の安全に配慮できる生徒を育てる。	・生徒の自発的な清掃をめざして、指導の工夫・改善をする。	A	
	3. よりよい環境を積極的に創る生徒を育てる。	・学習環境の整備について、自発的に取り組める生徒の育成を目指し、指導する。	B	
第1学年	1. 日々の授業を大切にし、確かな学力を育む。	・授業を中心とした学習習慣が確立できるよう、個々に応じた支援を行う。また、しっかりとした授業規律をつくり、個々が活躍できる場を設定し、確かな学力につながるよう支援を行う。	A	個々の生徒の頑張りをお互いに認め合い、全体としての力になるように、活動を振り返って次につなげる機会を増やす。また、お互いの価値観を認め合うことができるよう、支援していく。
	2. 互いの個性を認め合い、それぞれの長所を伸ばす姿勢を育む。	・学級、生徒会、行事などで、個々が力を発揮できる場と役割を設定する。また、自他の良いところを理解し、互いの役割や長所を認め合うことができるよう支援する。	B	
	3. 心身ともにたくましく、様々なことに挑戦する心を育む。	・基本的な生活習慣が確立できるよう、個々に応じた支援を行う。また、生徒会活動や行事、部活動などを通して、様々なことに挑戦する心を育むために、環境を整備し、面談などで個々への声かけを行う。	A	
第2学年	1. お互いを認め合い、思いやりのある人間関係を築くことができる。	・授業や学年・学校行事を通して、生徒にお互いのよさに目を向けさせ、一人一人が人間として成長できるように教師が支援する。	B	生徒にいろいろな仕事を、責任をもってさせる機会を増やすことで、自ら考え、適切に判断する生徒を増やしていくことを目指す。
	2. お互いを高め合うことで学習意欲を向上させることができる。	・日々の授業において、生徒全員が積極的に授業に参加し、学習する雰囲気を作っていく。生徒の学習意欲が向上できるように教師が支援する。	A	
	3. 何事にも、自ら考え、最後まで責任をもってやり遂げることができる。	・何事にも、生徒自ら考え、適切に判断し、与えられた仕事を最後まで責任をもってやり遂げることができるように教師が支援する。	B	
第3学年	1. 他者の気持ちや周囲の状況を押し量り、行動できる生徒を育成する。	・さまざまな場面において他者の気持ちや周囲の状況に気づかせるとともに、よりよい行動ができるように支援をする。	A	
	2. 自分の考えに自信を持ち、行動できる生徒を育成する。	・正しい判断や行動ができる力に気づかせ、学校生活においてその力を発揮する場面を作り、より一層育む支援をする。	A	
	3. 目標の実現に向けてたくましく取り組む生徒を育成する。	・進路や学習、学級活動や学校行事等において、常に三年生であることを意識させ、全力を尽くせるように支援をする。	A	

評価基準

A：達成されている

B：ほぼ達成されている

C：あまり達成されていない

D：達成されていない